

一般質問について



①まほろば健康パーク機能強化事業について、従前の計画では再整備を行うのは緑地や野球場など約7000㎡とされていたが整備する規模に変更はあるのか、内容やコンセプトに大きな変更があるのか、そして現在の進捗状況は。

現在ニーズの把握や他府県の事例調査等をしており、規模は従前計画で議決いただいた範囲内で考えている。また、どんな特性の子どもでも楽しめるインクルーシブ遊具の導入も含め、広く利用してもらえる公園にしていきたい。



②県営都市公園の効率的な運営管理について。人口減少や少子高齢化による税収減が加速し、公園の維持管理費負担も重くなってきている。民間事業者に一定期間、場所を無償貸与してイベント等の採算性を試してもらおうトライアルサウンディング等も活用して稼ぐ都市公園を目指すべきと考えるがどうか。

例えば馬見丘陵公園では四季折々の花の植え替えやそれに伴うイベント、日常の維持管理で多額の費用を要している。これまでも飲食店などの便益施設からの使用料収入を得るなどはしてきたが、県営公園全般についてトライアルサウンディングも含め更なる収入増に向けて取り組みを検討していく。



③奈良県中央卸売市場の再整備について。BtoBの市場部分で事業者に対して新施設の使用料目安の提示を行ったのか、行ったのであればそれにより移行を希望する事業者が増減があったのか等、状況をお聞かせください。BtoCのにぎわいづくりの部分においても民間業者に独立採算でどういった事をやってもらえるかのヒアリングをされているかと思いますが進捗状況を教えてください。

市場エリアの規模は概ね合意が取れており、再整備後の施設使用料は算定を進めている。にぎわいエリアについて、一部県負担を求める事業者もあるが、一社からは条件次第で独立採算できると回答があった。今年度中に新しい基本方針を示し来年度に実施プランを策定して、工事発注に向けて進めていく。



④県産農産物等の輸出促進の取組について。県産農産物等の輸出を促進するためには、農地の集約であったり、農家や農業法人の育成や誘致といった生産面の体制づくりと規制対応を含めた海外の販路拡大の両面から進めていく必要があると考えるが、今後どのように取組を進めていくのか。

農業者の所得拡大に輸出促進は必要だと考えており、経営高度化や法人化には専門家を派遣する伴走型支援をしており、合わせて輸出促進も図る。国内消費量の減少が著しいお茶について相手先国の残留農薬基準のクリアに向けて農家支援をしており、これをイチゴや柿にも拡充し、産業化と持続化を今後も進めていく。



- ①子育て支援の観点からも幼児から小学生までが一日遊べる規模の屋内遊戯施設を強く要望。
- ③県内の食を支えている場内事業者の負担軽減で、使用料上昇を抑制頂くよう要望。